

## 第 6 回津山市地域公共交通会議 会議録(要旨)

平成 22 年 8 月 30 日 14 : 00 ~ 15 : 10

津山市役所東庁舎 3 階 E302 会議室

### 1 開会(事務局)

### 2 会長挨拶(会長)

### 3 報告事項

#### (1)更新登録・津山市福祉移送サービス事業

(事務局) 5 月 25 日開催の前の公共交通会議で協議をさせていただいた津山市福祉移送サービスについて、内容的には市町村有償運送の福祉運送であることを確認、現在更新に向けて事務手続き中であることを報告。

(会長) 質問等はないか。

(会長) 承認としてよいか。 承認

### 4 協議事項

#### (1)路線の変更等について

ア 循環ごんごバス

イ 支所間ごんごバス

(ア)加茂路線

(イ)勝北路線

(事務局) 今回の路線の見直しについては、冒頭に話があったように、循環ごんご及び支所間ごんごについてということでお願いしたい。

見直しのもととなる総合連携計画の基本方針については、厳しい財政環境下で維持・継続できる体系とすることを目的とし、効率的再編をし、わかり易い体系とすること、また、利便性を向上させることで利用を促進することを目指すこととしている。

これを今回の循環ごんご・支所間ごんごについてあてはめると、お互いが重複している路線を整理統合することで効率的再編をする。循環ごんごについては、走行地域を広げる(野介代・志戸部等)・需要のある施設へ乗入をする(イオン)ということになるかと思う。支所間ごんごについては、増便する(2 便 3 便)。需要のある施設へ乗入をする(イオン)。ということで利便性を向上させ利用を促進することで増収を図り、維持・継続できる体系とする。

これまでの経路と見直し後の経路をご覧いただきたい。これまで循環ごんごと支所間ごんごが旧市内のかなりの部分で重複しているためお互いの利用客を奪い合い、結果として場合によっては空走行となる便があ

るといったことがあった。また、支所間ごんごが 1 日 2 往復ということで、かねてより増便の要望があったが、現行の長い経路のままで増便するためには増車・増員が必要なため現在の津山市の財政状況ではなかなか対応できないということがあった。今回の見直しでは、循環ごんご・支所間ごんごともにイオン津山へ乗り入れることとし、主な利用先である中央病院と合わせて結節点と位置付け、支所間ごんごについては、結節点での折返し運行とすることで走行距離を短縮して増便を可能とし、その先の旧市内への連絡は循環ごんごへ乗り継ぐということでお互いの路線の重複による非効率な走行をなくすという考え方である。また、乗継ということで利用者には若干の手間と料金増の負担をお願いし増収を図るものである。これに伴い、一日フリー乗車券については当面廃止とする。しかしながら、加茂～津山間の JR 料金(320 円)と比較してもまだ高くない設定となっている。これまで支所間ごんごが走行していた区間(野介代・志戸部等)については循環ごんごでカバーすることになり、若干循環ごんごの走行地域を広げることとなり便数が多くなるので利用者の期待に応えることとなる。

なお、今回中央病院北にある高杉団地に地元負担を前提に支所間ごんごを乗入れ、中央病院で循環ごんごへの乗継を検討していましたが、今回の見直しで循環ごんごの走行も可能となり、地元においても支所間ごんごに比較して循環ごんごのほうが利便性がさらに高いということで循環ごんごを乗り入れることとしている。さらに、詳細図をご覧いただければと思うが、結果として循環ごんごはこれまで走行していた国道 53 号線を走行しないこととなり、従前の行方線との異種運賃走行が若干改善されることとなる。循環線、支所間の乗継については乗継券を発行し、半額の 100 円の負担をお願いする予定としている。

次に循環ごんごについては、従前の路線と比較して若干走行距離が伸びるため、1 時間での周回は困難で、1 時間 15 分での周回となり、利用者に多少の混乱は予想されますが、利用者は時間の制約の少ない高齢者が多いこともあり、実害・支障は少ないと考えている。また、慣れていただくために当初 1 週間程度の試乗を実施する予定である。

なお、勝北ごんごについては今回の見直しを機に従前より乗入要望のあった奥津川地域への乗入を実施。今回は試験的に週 2 回(木、土、火は福祉バス)の予定。

- (会 長) 質問・意見はないか。
- (委 員) 循環線は、だいたい何人ぐらいが乗るのか。バスの大きさはどの程度か。
- (事 務 局) 現在、年間 8 万人ぐらいまで落ち込んでいる。記念病院が中心部にできたり、中心商店街の衰退等が影響している。また、志戸部等からの要望もあり、これにより利用の増加を図りたいということもあった。

- (委 員) きめこまかくバスが回ると、タクシーの仕事がなくなってしまう。
- (事 務 局) タクシー業界がきびしい状況にあるということは認識しており、なんとか共存したいと思っている。その中で乗合タクシーができないかという提案もさせていただいている。
- (委 員) 日中、バスにはあまり乗っていないようだ。
- (事 務 局) そういう実態もあるが、循環線と支所間バスの路線が重複している状況なので、ここを改善させていただいている。
- (委 員) 加茂・勝北から市役所に来るときの運賃はいくらになるのか。
- (事 務 局) 300 円になる。中央病院までは 200 円。
- (委 員) 乗り換え時間はどのくらいか。
- (委 員) 5～20 分程度を考えている。支所間ごんごから循環線への乗り換えも同程度を考えている。
- (委 員) 中央病院での乗り換えは、混雑等の問題はないのか。
- (委 員) 2 台をくっつけて停車すれば問題はないと思う。
- (委 員) 病院への通院者の方との関係もあり停めにくい現状がある。
- (委 員) 計画の中では、重複している路線を整理したいということで支所間バスを街中まで入れずに折り返すこととした。利用者の目的地として中心部は少ない状況がある。また、循環線は城東と国道 53 号線を通り、支所間バスは志戸部等を通っていたがこの志戸部部分を走らなくなるので循環線でカバーしようというものである。
- 循環線は、現在 23 便あり、1 便あたり 10 人弱の乗車である。今回の経路変更により便数は若干少なくなるが利便性は向上するのではないかというのが検討の結果がこの内容である。野介代等も新たに通ることになり、関係機関の了解も必要である。城東地区については、西向きにも走ることになる。
- (委 員) バスセンターが街中にあるのが普通で、東の病院で乗り換えするというのはどうかと思う。
- (事 務 局) 今回の計画は、なるべく費用をかけずにやっ払いこうとしているが、このたびの事業は東方面なのでバスセンターがあまり出てこないが西循環線や JR との結節点となるものである。病院等については、バスセンターという役割ではなく目的地であり、かつ乗り換えの拠点である。
- また、今までも循環線・支所間ごんご共に中央病院に入ってきている。
- (会 長) 市内に入ってくる人には乗り換える不便も発生している。
- (委 員) 乗継時間が待てずにタクシーを利用する人も出てくると思われる。
- (会 長) 乗り換えるの不便のかわりに便数が増えたということである。
- (委 員) 空のバスをはしらせているということでしかられることがある。
- (事 務 局) イオンまで路線が延伸することでタクシーにも多少の影響が出るとは考えている。
- (会 長) 行政機関として、警察・県等、何かないか。

- (委員代) 影響としては大きくないと思う。便数が増えることにより外出の機会が増え、タクシー等にも好影響があると思う。
- (委員) 乗り継ぎすることにより、増収になるということか。
- (委員) バス車両がたくさんいるのではないか。
- (事務局) 台数的には変わらない。
- (委員) バス停を中央病院やイオン等、きちんとしてもらわなければならない。
- (会長) 10月1日の運行開始を目指しているのか。
- (事務局) その予定で申請中である。
- (委員) 乗り継ぎの判別はどのようにするのか。
- (事務局) 乗り継ぎ券により行う。
- (委員代) 乗り継ぎは、すぐ次の便でなくても乗れるのか。
- (事務局) どの便に乗ってきたかを乗り継ぎ券でわかるようにしており、当日有効で同じ路線には使えないということでやりたいと考えている。
- (委員) 加茂から中央病院にきて、イオンへ乗り継いだ場合は100円か。
- (事務局) 中央病院からイオンに乗り継ぎときに循環線を利用すれば100円である。
- (委員) 循環線・支所間ごんごの相互乗継はするが、行方線等の一般路線との乗継割引はしない。実際には、実証運行をする中でいろいろなことが出てくると思う。支障が出てくるようであれば対応していきたい。
- (委員代) 支所間ごんご間での乗継割引はどうなるのか。
- (事務局) それも考えている。どこから乗り継いだかがわかるようになっているので対応可能である。
- (会長) 想定できることは対応していきたい。10月1日から進めることについて、承認をいただきたい。
- (委員) バスは補助があるが、タクシーは補助がないので大変である。
- (委員) 乗り継ぎが発生することでタクシーに乗ろうという人も出てくると思う。バスもタクシーも最大限の努力をしている。
- (委員) タクシーは深夜も対応しているため大変である。良い時間だけバスを運行するというのは困る。
- (委員) 深夜にバスを運行するとタクシーの利用が下がるのではないか。乗合バスは、場所と経路を決められてしまっている。タクシーは、自由な経路をとれるという利点があるのではないか。
- (事務局) 今回の計画は、路線を組み替えただけで、路線としては一部が増えただけである。
- (委員) この事業については、道路運送法上の手続きがぎりぎりの状況である。今日の会議の結果をもって、明日にでも申請したいと思っている。新しい路線の認可をいただくために道路管理者・公安委員会等の意見が必要であり、これを近々にいただけるようお願いしたい。

## (2)その他

(事務局) 具体的にはないが、計画について最初の事業となる。調整がついて段階でいろいろとご協議をお願いすることとなる。

#### 5 その他

(委員) 奥津川にはどのバスが入るのか。どのくらい乗る人がいるのか。

(事務局) 勝北ごんごが入る。試行ということであり、状況により今後を考えていきたい。

(会長) 実施して利用実績がなければ見直していくということになるのか。

(事務局) そのとおりである。奥津川は、路線の端になるので支障なく運行ができそうである。毎日の運行ではなく、週2日運行を考えている。

#### 6 閉会(会長)